

地域教育
情報紙(25年度)
第7号

風と花

平成26年 1月 6日発行
＜担当＞富士・東部教育事務所
地域教育支援スタッフ
秋山俊一・高野 修
小林統也・杉田 眞

富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、地域教育の「横の連携」と「縦の接続」を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。年に8回程度の発行を予定しています。

◆ [東日本大震災ドキュメンタリー映画「今日を守る」上映会・講演会]

明見中学校PTA 教育講演会

10月25日(金)に明見中学校(上野充仁校長)体育館でPTA教育講演会として、東日本大震災ドキュメンタリー映画『きょうを守る』の上映会及び講演会が開催されました。PTAが主体となって地域とのつながりを築くことをねらいとして地域にも案内を行い、中学生・教職員・PTA・地域の方々合わせて400名ほどの参加がありました。講師の菅野結花氏は陸前高田市出身で、震災当時は山梨県立大学3年生であり、現在は岩手日報社編集局運動部記者をしている方です。東日本大震災ドキュメンタリー映画『きょうを守る』は、菅野結花さんが監督・撮影・編集をすべて行った映画です。本人は被災しませんでしたが大実家が流され、親しい友人や高校の恩師を亡くしてしまい、震災を忘れないという思いで友人たちにインタビューをした様子を撮影した作品です。プロの作品にはない被災者目線の構成がたくさんあり、防災や今を生きることについて考えさせられる内容になっています。この作品は、全国60ヶ所以上で上映され、アメリカでも英語の字幕付きで上映されています。



講演会では、東日本大震災を身近な課題として認識する必要性が説かれ、関心のある内容ということもあり、熱心に聞き入り、メモを取る参加者が多く見られました。最後に、「自らが状況を認識し、行動をとる能力、すなわち自分で判断する能力」など、地域住民、教員、生徒に求められる課題が提示され、講演会を終了しました。

◆ [上野原高等学校「進路指導研究推進校」研究報告会]

上野原高校(清水 澄校長)は、山梨県教育委員会より「平成24・25年度高等学校進路指導研究推進校」に指定され、キャリア教育に関する実践研究を行ってきました。その取り組みの報告会が12月4日(水)に上野原高等学校やまもみじ文化ホールにおいて開催されました。開会行事の赤池高校教育課長の挨拶では、第2期教育振興基本計画を受け、本県の教育振興の基本となるべき『新やまなしの教育振興プラン(仮称)』が本年度中に策定されるとのお話がありました。次に報告会に先立ち、文部科学省の西辻正副主任視学官の講演「学習指導要領の趣旨を踏まえた、これからの時代に求められる能力の育成」が行われました。講演後の報告会では、中学・高校の学校関係者が出席するなか、教頭から「本校における取り組み全般について」、地歴・公民科教諭から「評価に対する取り組み～open-ended questionを取り入れた評価方法の考察～」、英語科教諭から「言語活動を通じた取り組み～教科・科目横断型授業～(英語・理科)」、図書委員会の顧問から「生徒の活動事例～アニメーション～」の研究報告がありました。これらの教科を横断した授業実践や活動事例は、生徒の主体的に取り組む姿勢を引き出し、学ぶ意欲を高めることを目的とした、特色あるキャリア教育の実践報告となっていました。



●読書のアニメーション

「読書へのアニメーション」とは、スペインのモンセラット・サルト氏らが開発した「子どもの読む力を引き出すメソッド」です。子どもの発達段階に応じて75の方法があり、欧米では盛んに行

われています。

上野原高等学校の図書委員の生徒たちが、8月に幼児を対象に上野原市立図書館において、10月には中学生を対象に大月市立図書館において、読書の楽しみを味わう手法「読書のアニメーション」を実施しました。この取り組みは、生徒のコミュニケーション能力を実践的に高めると同時に、学校と図書館を有機的に結びつけ、地域との連携を進めるものです。この上野原高校の「アニメーション」の取り組みでは、集団読書後に本の中身について話し合いを行い、知識や情報を活用し、多様な考え方や違う意見の人たちとコミュニケーションすることが、自然に行われるような仕組みになっており、これによって「思考力・判断力・表現力」が効果的に育まれるというものです。上野原高校では、生徒たちの学習に対する意欲を高める学習指導法としても「読書のアニメーション」を取り入れた授業を行っています。

◆ [第4回 南都留支部特別支援教育研究会・第2回学習会]

11月28日(木)に忍野村生涯学習センターにおいて、第4回南都留支部特別支援教育研究会・第2回学習会が行われました。南都留の小・中学校の特別支援学級、特別支援教育に係わる先生方約50名の参加がありました。学習会では、知的学級と情緒学級の2グループに分かれて行われました。知的学級のグループでは『複数人数いるときの学習の仕方について』(忍野小学校)と『学習差がある生徒同士との学習の仕方について』(忍野中学校)の2本の提案があり、ふじざくら支援学校の先生方がコーディネーターとして各班に加わって、提案内容を掘り下げて学習を深めていました。情緒学級のグループでは『学習意欲を高めさせるためには』(忍野中学校)の1本の提案があり、ふじざくら支援学校の先生方を中心に意見交換が活発に行われた中身の濃い学習会でした。



特別支援教育における指導上の様々な悩みを解消すべく、一生懸命に学習する先生方の真剣な姿が印象的な学習会でした。

◆ [明日の風 小林雅英野球教室]

12月15日(日)に今年度で13回を数える「小林雅英野球教室」が、上野原市桂川野球場で開催されました。小林雅英コーチは大月市の出身で、大月西小学校・大月東中学校・都留高等学校・日本体育大学・東京ガスを経て1998年にドラフト1位で千葉ロッテに入団し、03年に連続セーブポイント日本記録樹立、翌年のアテネオリンピック日本代表、07年には7年連続20セーブを達成、08年には大リーグのインディアンスに入団して『ドリームスカムトゥルー(夢の実現)』を見事に果たしました。インディアンスでは、中継ぎ・抑え投手として活躍し(投球回数56回4勝5敗6セーブ)、09年にインディアンスを退団し巨人軍入団、11年オリックス・バファローズに移籍、その年の11月1日に引退し、現在オリックスのピッチングコーチとして活躍しています。



この野球教室は、地域教育「明日の風」(北都留地域教育推進連絡協議会)が主催し、上野原市野球連盟、上野原市スポーツ少年団指導者協議会や大月市スポーツ少年団野球部会、小林コーチの応援団・同級生のメンバー、そして地元への恩返しにと小林コーチの全面的なご協力をいただいている行事です。

会場には、北都留地域のスポ少の野球チームや中学校の野球部、保護者、来賓、応援団、実行委員合わせて約280名が集まりました。開会式後の野球教室(実技指導)では、3グループに分かれて小林コーチから一人ひとりが丁寧に投球フォームをチェックしてもらっていました。小林コーチとの交流会の「小林コーチQ&A」と「小林コーチとじゃんけんゲーム」では、小学生・中学生がコーチに質問をしたり、小林コーチから直筆のサイン入りファンジャージ・ボール・帽子等をプレゼントしてもらったり、コーチから一人ひとりに「プロ野球カード」を手渡してもらったりと子どもたちは大喜びでした。

閉会式後、スポ少の野球チーム・中学校野球部の子どもたちとの記念撮影が行われ、子どもたち、保護者、関係者は、小林ピッチングコーチの今後の益々の活躍を期待しながら帰路につきました。